東北農村訪問調査報告(1)
ー2018年８月，吉林省・遼寧省ー

メタデータ	言語: jpn
	出版者:
	公開日: 2019-07-10
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 弁納, 才一, Benn, Saiichi
	メールアドレス:
	所属:
URL	https://doi.org/10.24517/00054854

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.

東北農村訪問調査報告(1)

―― 2018年８月，吉林省・遼寧省 ――

弁　納　才　一

はじめに

筆者は，これまで数回にわたって中国東北部(大連・旅順・瀋陽・吉林・長春・哈爾浜・牡丹江など)を訪問したことがあるが[1)]，今回(2018年８月14日～20日)は11年ぶりの訪問となった。しかも，今回は初めて東北部の農村部にまで行くことができたことは，これまで主に華北・華中・華東の農村を訪問してきた筆者ら[2)]にとって非常に意義があった。

今回の参加者は，弁納才一・田中比呂志・古泉達矢・姜文浩(東京学芸大学大学院生)の４人で，同行した姜文浩に遼寧省内の農村を案内してもらい，また，文献資料調査などを目的として長春に滞在していた菅野智博[3)](日本大学文理学部特別研究員)には吉林省内の２ヶ村を案内してもらった。

８月14日㈫，早朝に成田から遼寧省大連へ飛んだ。大連の飛行場から２台のタクシーに分乗して大連火車站へ向かった。所要時間は約20分で，料金は28.2元だった。100元札で支払いをすると，72元のつり銭が戻ってきた。大連站では瀋陽行の切符と８月18日の瀋陽から大連に戻る切符も合わせて購入した。大連站を出発し，途中，海城西站と鞍山西站に停車して瀋陽站には14:00前に到着した。瀋陽站では翌15日の吉林往復切符と翌々日16日の往復切符を購入した。大連市は32度だったが，瀋陽までの移動中にかなり雨が降ったためか，瀋陽市は24度だった。15日㈬は，瀋陽北站から吉林站へ行き，吉林市近郊農村を参観し，吉林站から瀋陽站へ戻ってタクシーでホテルまで帰って

きた。16日㈭は，瀋陽北站から公主嶺南站へ行き，四平市近郊農村を参観し，公主嶺南站から瀋陽站へ戻って地下鉄で瀋陽北站へ移動し，ホテルに帰ってきた。17日㈮はホテルから鉄嶺市の農村まで車を借り上げて往復した。18日㈯に瀋陽から大連へ移動し，20日㈪には大連から成田へ帰国する予定だったが，大雨による冠水に伴う大連空港の閉鎖によってフライトがキャンセルされた。そのため，筆者らの帰国は翌21日㈫に延期されてしまった。

なお，本稿では，主に煩雑さを避けるために，原則として算用数字と常用漢字を用いるとともに，敬称を略した。また，個人のプライバシー保護の観点から，訪問した農村における聞き取り調査にかかわる人名・地名・固有名詞などについては基本的に伏せることにした。

Ⅰ　聞き取り調査

⑴　吉林省吉林市X郷Z村

８月15日㈬，8:20にホテルのロビーを出発し，瀋陽北站(G8103，9:09)から高速鉄道に乗車して吉林站(11:16)で下車し，同駅の西口で長春に文献資料調査に来ていた菅野智博と待ち合せをし，菅野智博の知人のつてを頼って200元という破格の料金で車をチャーターし，吉林省吉林市近郊のX郷Z村を訪問した。

弁納・菅野と田中・古泉・姜の二手に分かれて，それぞれ老人に昔の話を聞くことができた。

聞き取り日時：2018年８月15日㈬　12:30～13:30
聞き取り場所：LBY宅
聞き取り対象者：LBY
聞　　き　　手：弁納才一・菅野智博
通 訳 ・ 記 録：菅野智博
整　　理：弁納才一

LBYの個人史

・私(LBY)は，旧暦1949年８月12日(丑年)生まれで，69歳になった。８歳で小学校に入学し，10歳の時(1959年)は食糧不足が深刻で，本村内では餓死者が出た。当時は，楡の樹皮・雑穀の糠・「柞樹」の葉などが食べ物として配給された。小学校では６年間学び，13歳で卒業した。その後は，本村で農業に従事した。

・生産小隊では牛馬で糧食(税)などを運ぶ仕事をしていた。

・1983年に土地が再分配されてから生活がよくなった。１人1.2～1.3畝の土地を分配された。当時，我が家は９人家族だったので，合わせて１「晌」(10畝)の土地を分配された。1980年代は，粟・高粱・玉蜀黍(１斤当たり0.2元)を植えていた。

・1990年代になると，玉蜀黍に加えて水稲も植えるようになったが，水稲は主に自家消費用だった。

・2018年現在，７畝の土地があるが，１年に300元と自家食糧用の米を貸借料として人に請け負わせている。また，敷地内でわずかに蔬菜を栽培し，朝，吉林市の市場に売っている。なお，国家から毎月200元(このうち妻が120元)の「補助」(年金？)を受け，夫婦２人で年間5,000～6,000元の収入がある。

LBYの家族史

・先祖は，数世代(約200年)前に山東省文尚(汶上？)県から山海関を越えて本村にやってきたと聞いている。父(LYX)は，寅年(1925年？)生まれで，2007年に亡くなった(享年84歳)。母(ZZL，父より３歳年上)は，本村の出身で，60歳で亡くなった。父は，土地改革の時，「富農」とされ，「戴帽子」を経験した。労働をしても，いつも「工份」(労働点数)が減らされていた。もともと祖父の兄が大土地所有者だったが，土地改革前に祖父に土地を分配したため，祖父の兄の家は「中農」とされた。

・妻(SAY)は，申年(1955年８月15日)生まれで，本村から約300里離れた吉林省樺甸の出身である。

・子供は２人いる。長男(LGL)は，卯年(1975年７月８日)生まれで，2018

年現在，43歳になり，1997～98年頃から「打工」を始め，吉林市・福州市・重慶市などへ出かけていったが，現在は西安市で「打工」をしている。年に１～２回，本村に帰ってくる。長女（LGY）は，巳年（1977年１月）生まれで，2018年現在，41歳になった。この他に内孫・外孫もいる。

村の概況

・1950年代，X郷Z大隊の下には７つの生産小隊があった。本村は第６小隊に属し，40～50戸（69人）が住んでおり，40「晌」（400畝）余りの土地があった。
・1960年代初頭，山東省から多くの人が乞食として本村にやってきた。一部の人は，その後も本村に残り，現在でも本村内で暮らしている。
・1950～70年代，本村は農業を主とし，副業はなかった。本村で飼育されていた牛馬は主に耕作用であり，豚も数匹いたが，年越しの時に殺して食べた。

⑵　吉林省四平市Y県J鎮X

８月16日㈭，瀋陽北站（G8125，9:44）から高速鉄道に乗車して公主嶺南站（10:45）で下車し，同駅の出口で菅野智博と待ち合わせをし，吉林省四平市Y県J鎮Xを訪問した。

弁納・菅野と田中・古泉・姜の二手に分かれて，それぞれ老人に昔の話を聞くことができた。

聞き取り日時：2018年８月16日㈭　12:05～14:20
聞き取り場所：ZFY宅
聞き取り対象者：ZFC・GLX
聞　　き　　手：弁納才一・菅野智博
通 訳 ・ 記 録：菅野智博
整　　理：弁納才一

ZFCの個人史

・私(ZFC)は，申年(旧暦1944年９月２日)生まれで，ZFYの親戚(従兄弟，「輩行」から言うと「弟」)である。ZFYの家のすぐ近くに住んでいる。

・中学校２年生で中途退学し，農業に従事した。また，高粱・粟・大豆(栽培が多かった)・玉蜀黍(栽培が少なかった)などをJ鎮の「糧食站」へ運ぶ仕事もした。

・1970年，生産小隊で「組長」(「打頭的」)となり，10年間くらい務めた。その時，親戚のZFYが生産小隊長を務めていた。小隊長は生産小隊の全てを主管したが，組長は労働にのみ責任を負った。

・1970年代末に「承包」(生産請負)してから，生活がよくなった。その時は家族が４人いて，土地は肥沃度に応じて６等級に分けられていたが，１人当たり約3.8畝を分配された。土地の再分配は老若男女を問わず，平等に行われた。農産物の余剰分はJ鎮の「糧食公站」へ販売した。品質からいうと，１等級と２等級のものが多く，３等級のものは少なかった。「糧食公站」に農産物を持ち込むと，「開条子」(重量を用紙に記載)をしてもらい，その「条子」を現金に交換した。その後，一人っ子政策を推進するために，一人っ子には1.5人分の土地が分配された。

・1980年代には，１斤当たりの買付価格は，玉蜀黍が0.2～0.3元，大豆が0.4～0.5元だった。大豆は買付価格が玉蜀黍よりも高かったが，収穫量が少なかったので，みな大豆を喜んで植えようとはしなかった。

・2018年現在，２人の息子も独立したため，夫婦２人で7.6畝の土地に玉蜀黍を植えて約２万斤の収穫があり，１斤当たり0.83元で買付けられ，玉蜀黍畑１「晌」(10畝)につき6,000元(1,000元？)の補助金をもらっている。

・2018年現在，年間１万元余りの収益があり，毎月1,200～1,300元の年金をもらっている。

ZFCの家族史

・父(ZQX)は，1910年代生まれであろうと思うが，よくはわからない。1960年代に死去した。

また，母については名前も生年月日も知らない。父の兄(ZHS)の子がZFY

で，私(ZFC)より年下なので，「三弟」ないし「老弟」と呼ばれ，私は「二哥」と呼ばれてきた。なお，「大哥」がいたかどうかは不明で，話を聞くことはできなかった。

・妻(LZJ)は，丑年(1948年？)生まれで，本村の出身である。

・兄弟はいないが，姉が２人，妹が１人いる。上の姉と妹はともに河南省鄭州市D県へ嫁いだ。上の姉の夫は，本村から約40里離れたSの出身だったが，仕事の関係で河北省(河南省？)へ行った。妹は，仕事の分配で河南省の機械工場へ派遣されたが，河南省にいた上の姉の紹介によって河南人と結婚した。下の姉は，Y県城へ嫁いで，教師をやっていた。

・子供は息子が２人いる。長男(ZJH)は，亥年(1983年)生まれで，長春・苑家屯・天津などで「打工」をしてきたが，農繁期には本村に戻ってきて農業に従事している。次男(ZJH)は，戌年(1994年)生まれで，本村内に住んでいて土建業(ショベルカーで地面を掘削する作業)に従事している。

村の概況

・本村(X)には1958年か1959年の秋に１回だけ大食堂が設けられた。1960～61年，食糧不足が深刻だったが，本村には餓死者はいなかった。

・1950～60年代，本村には全く副業がなく，生産大隊では10頭余りの牛や数頭の馬を飼育していたが，鶏の飼育はとても少なく，豚は飼育していなかった。本村は，J郷F大隊に属し，第一小隊と呼ばれ，当時は20戸余りだったが，2018年現在は32戸に増えている。生産小隊の１日の労働点数は，男女ともに10点で，子供(「放猪的」)は８点だった。

・文革中，本村は僻地にあったので，本村には紅衛兵は１人も来なかったし，本村では特に政治的に大きな動きもなかった。

GLXの個人史

・私(GLX)は，辰年(1952年？)生まれで，生まれたのは山東省L県である。1963年(12～13歳頃)に親戚を頼って，家族みんなで東北にやって来た。

・東北は労働力が不足し，土地が多いと聞いていたので，一家で移住することにした。父(GYM)の兄(GYQ，瀋陽に住んでいた)の娘(GL○，その

夫は当地のC大隊Xの人だった。〇は不詳）と何度か手紙でやりとりし，その紹介によってJ生産大隊D（本村から約20里離れている）にやってきた。その時，同じ村の人も７～８戸がいっしょにやってきた。父・姉２人・兄・弟がまず先に来て，次いで母と私が来た。DからSまでバスに乗り，そこから汽車（硬座，約30元）に乗車して３日間かけてFへ到着した。私が汽車に乗ったのはその時が初めてだった。そこから徒歩で５～６時間かけてJ生産大隊Dに到着した。当初は言葉もわからず，苦労した。東北は寒さも厳しいと感じた。山東省にいた時は「地瓜」（甘藷）・窩窩頭・落花生（「零食」）を食べていたが，東北では大餅子（玉蜀黍）・粟・高粱を食べるようになった。

・1976年，ZFYと結婚し，2018年現在，67歳である。

GLXの家族史

・父（GYM）は，辰年生まれで，今年まだ生きていれば，98歳か99歳になるが，94歳で死去した。母（LQH）は，今年まだ生きていれば，97歳か98歳になるが，78歳で死去した。

・父と父の兄（GYQ）はともに満州国奉天（長春）で「打工」をしていた。父は1945年に父の母がいた河北省D村に戻ったが，父の兄は瀋陽に留まって仕事をし，父の兄の娘（GL〇）は長春に留まり，後にC大隊Xへ嫁いだ。

・私（GLX）の兄弟姉妹は２人の姉と兄・弟の計５人である。兄（GLD）は，卯年（1951年）生まれで，裸足の医者になるための育成学校に通って勉強し，中卒で医者になる資格を得る試験に合格し，J生産大隊で医者をしていたが，去年（2017年），死去した。弟（GLZ）は，午年（1954年）生まれで，2018年現在，W村で「木匠」をやっている。上の姉（GLF）は，申年（1944年）生まれで，J生産Dに住んでいる。下の姉（GLZ）は，丑年（1949年）生まれで，70歳余りになり，2018年現在，J生産大隊Dに住んでいる。

・私が生まれた村は，もともとは河北省N県D公社D村だったが，1961年前後に洪水が発生し，隣接する山東省に排水する許諾を得るために，山東省L県に帰属することになった。

⑶　遼陽省鉄嶺市X県L郷L村

８月17日㈮,同行した姜文浩に７人乗りの車をチャーターしてもらって(車の借り上げ代は高速道路料金・ガソリン代などを含めて800元)，8:00にホテルを出発し，途中，開原(9:15)・金溝子(9:20)・威遠堡(9:30)・郜家店鎮(10:00)を通過して遼陽省鉄嶺市X県を訪問した。途中，威遠堡で高速道路を降りて給油・休憩し(9:40～9:50)，一般道を走って朝鮮族の村に立ち寄ろうと考えたが，途中の道路が工事中で迂回すると約50㎞にもなるので，訪問することを断念した。17:00前にはホテルに戻ってきた。

聞き取り日時：2018年８月17日㈮　10:10～12:10
聞き取り場所：SXY宅
聞き取り対象者：SXY
聞　　き　　手：弁納才一・田中比呂志・古泉達矢
通　　訳：姜文浩
整　　理：弁納才一

SXYの個人史

・私(SXY)は,旧暦の1945年４月(酉年)生まれで，2018年現在，73歳になった。姉との２人きょうだいである。姉は，丑年生まれで，G鎮の農家に嫁ぎ，69歳で死去した。
・８歳(1953年)で本村の小学校に入学して６年間学び,本村から約10里(５㎞)離れたX一中(合格率は約30%)に合格して1958年から３年間学んだ。自宅から昼食を持参して徒歩で通学した。当時の主食は,主に玉蜀黍(窩窩頭・粥)だったが，米や粟も食べた。また，副食はジャガイモ・白菜・「芸豆」・豚肉・鶏肉があった。家で豚や鶏を飼育していた。
・中学校を卒業した後，本村で農業に従事した。本村が１つの生産大隊となっており，その下に４つの生産小隊があった。生産小隊では「木匠」をやった。ただし，文革のことは語りたくないと言ったので，聞かないことにした。
・若い時は，養蜂に従事するために四川省や安徽省など全国各地を移動した。

・2018年現在，1人で暮らしている。玉蜀黍を栽培しているので，毎年，1,600元の補助金をもらっている。政府の補助金は，玉蜀黍が最低で，大豆が最も多かったが，大豆は収穫量が少ない。

SXYの家族史

・先祖は，今から130年前の1887年に開原から本村にやってきた。私（SXY）は５代目にあたる。
・父（SFZ）は，1919年（申年）生まれで，1994年に75歳で死去した。農民だった。父は四男二女の６人兄弟の三男だった。
・母（CYH）は，父より４歳年上（辰年生まれ）で，2004年に89歳で死去した。本村の出身だった。
・本人自らが土地改革時の階級については話したくないと言ったので，あえて聞かないことにした。

村の概況

・本村では，1956年に初級合作社が成立し，1957年に高級合作社が成立し，1958年には人民公社が成立した。1958年は「大豊収」だったが，1959～60年は自然災害が酷く，食糧不足になった。
・1979年，1人当たり２畝（小畝）の土地が再分配された。玉蜀黍の「公糧」は１畝当たり1,600斤だった。
・旧暦の７月15日は中元節で，今年は８月25日にあたる。その日は清明節の時と同じように墓参りに行くという。一方，本村には，祠堂も廟もないという。

II　参観地

(1)　瀋陽市

８月14日(火)，大連から瀋陽までは高速鉄道に乗車して順調に移動することができたが，瀋陽站のタクシー乗り場ではタクシーがなかなか来なかったためにずいぶん待たされた。瀋陽北站のすぐ目の前にあるホテル（瀋陽珀麗酒

店）までの料金は15元だった。ホテルでチェックインを済ませて部屋に入った時は17:20頃になっていた。18：00にホテルのロビーで待ち合わせをして夕食を食べに出かけた。ホテルの近くの飲食店が立ち並ぶ通りを歩いてみたが，レストラン関係者の呼び込みばかりが多く，客の姿がほとんど見えなかったので，大型スーパーマーケットのカリフールの中にある餃子屋で食べた。同店は，チェーン店で，客が多く，かつ，料金の割には量も多く，味も満足できるものだった。

８月18日㈯午前，降雨の中，タクシーで東北大学を訪問した後，九・一八記念館（愛国主義教育基地となっているために，参観料金は無料となっているようである）へ行ったが，工事中のために閉館だった。その後，瀋陽故宮博物院と張氏帥府博物館を参観したが，あいにくの雨にもかかわらず，どちらも観光客でごった返していた。しかも，参観料はともに60元（1,000円）とやや高額だった。

なお，タクシーの初乗り運賃は８元である。

⑵　吉林市

８月15日㈬，瀋陽北站から高速鉄道に乗車して吉林站で下車し，吉林市近郊農村を訪問した。吉林市内は，瀋陽市内よりも高層ビルが少なく，少し田舎めいているが，緯度が高いので，最高気温が少し低かった。８月16日㈭，瀋陽北站から高速鉄道に乗車して公主嶺南站で下車し，Y県Xへ行く途中で小橋子という村を通過した時，路上の標識には「小桥子」の文字の上に満州文字が書かれていた（**写真１**を参照）。

また，途中，車で通過したW村の商店の前では，８月25日の中元節に備えてであろうか（本稿の⑶遼陽省鉄嶺市X県L郷L村の「村の概況」を参照），迷信紙（紙銭，焼紙）が売られていた。一般的に，馬蹄銀の形を模した紙銭は銀色だが，ここでは金色だった（**写真２**を参照）。

同日，菅野智博が手配した車に乗って農村を参観した後，松花江（吉林市豊満区豊満街）に旧日本軍が作ったというダムによってできた松花湖を参観し（１人当たり「観光車」乗車料金が15元，参観料金が10元），その時に使役された中国人の遺骨などを収容（かつては豊満“万人坑”）している吉林市労工記念

写真１．「小橋子」の標識

写真２．迷信紙

館(**写真３**を参照)も参観した。そして,同記念館は「愛国主義教育基地」(**写真４**を参照)となっていたために,参観料は無料だったが,我々以外に参観する

写真３．吉林市労工記念館

写真４．愛国主義教育基地

人は全くいなかった。2018年８月現在，新たにダムを建設中で(**写真５**を参照)，工事現場は軍の管理下に置かれており，このダムが完成すると，古いダムは破戒される予定だという。

なお，吉林市内のタクシーの初乗り運賃は６元である。また，吉林市に隣接する長春市内も６元だという。

⑶　大連市

８月14日㈫，大連空港のタクシー乗り場にはそれほど多くの乗客が並んではいなかったが，あまりタクシーが来なかったために，タクシーに乗車するまでかなり時間がかかった。

８月19日㈰，古泉達矢と14:00から中山広場へ行き，関東都督府郵便電信局(大連逓信局,大連郵政局辨公楼),朝鮮銀行大連支店(関東銀行),大連民政署・警察署(遼寧銀行大連分行)，基督教聖公会礼拝堂(基督教玉光街教堂，大連市基督教玉光街礼拝堂)，大和旅館(２階に喫茶店あり)，大連市役所(大連市人民政府)，東洋拓殖株式会社(中共大連市委)，大連支店台湾銀行(中共大連市

写真５．松花江に建設中のダム

工作委員会辨公楼)，大清銀行大連支店，横浜正金銀行大連支店(中国銀行大連支行)などを参観した。これらは中国国務院・遼寧省人民政府・大連市人民政府などによって「大連中山広場近代建築群」として全国重点文物保護単位に指定されている。

なお，大連市内のタクシーの初乗り運賃は10元である。

おわりに

吉林市と瀋陽市の計３ヶ村を訪問して気付いたのは，ほとんど全ての家屋が平屋建てで，屋根には煙突が出ていた点である。真冬は最低気温が零下30度にも達するというから，暖房(オンドル)は絶対に必要な設備であり，そのことが家屋の造りに影響を与えていると考えられる。

また，1970年代末の土地再分配の際に１人当たりに分配された土地の面積が華北の農村と比べて広い。

今回の聞き取り調査では，古くから山東省からの移民・開墾者が多く，山東省との人的結び付きの強さを感じさせられた。

大連から吉林までの高速鉄道の車窓からは稲作地と玉蜀黍畑が広がっているのが見えたが，意外にも大豆畑を見つけることはできなかった。

注

１）1990年８月に初めて大連市を訪問し，1998年７月に初めて長春市を訪問し，当時，金沢大学経済学部と部局間協定関係にあった東北師範大学を表敬訪問した。また，2004年９月には東洋文庫の兼任研究員として再び大連市を訪問して大連図書館で文献資料調査を行った。さらに，2007年３月には大連市・旅順市・瀋陽市・長春市・哈爾浜市・牡丹江市を訪問した。

２）華北農村調査については，拙稿「華北農村訪問調査報告⑴－2007年12月，山西省太原市・霍州市農村」(『金沢大学経済論集』第29巻第１号，2008年12月)・同「華北農村訪問調査報告⑵－2008年12月，山西省太原市・平遥市・霍州市の農村」(『北陸史学』第57号，2010年７月)・同「華北農村訪問調査報告⑶－2009年12月，山西省P県の農村」(『日本海域研究』第42号，2011年３月)・同「華北農村訪問調査報告⑷－2010年８月，山西省P県の農村」(『金沢大学経済論集』第31巻第２号，2011年３月)・同「華北農村訪

問調査報告⑸－2010年12月，山西省の農村」(『金沢大学経済論集』第32巻第１号，2011年12月)・同「華北農村訪問調査報告⑹－2011年８月，山西省の農村」(『金沢大学経済論集』第32巻第２号，2012年３月)・同「華北農村訪問調査報告⑺－2012年８月，山西省の農村」(『金沢大学経済論集』第33巻第１号，2012年12月)・同「華北農村訪問調査報告⑻－2013年８月，山西省の農村」(『金沢大学経済論集』第34巻第１号，2013年12月)・同「華北農村訪問調査報告⑼－2014年８月，山西省の農村」(『金沢大学経済論集』第35巻第１号，2015年１月)・同「華北農村訪問調査報告⑽－2014年９月，河北省・山東省の農村」(『金沢大学経済論集』第35巻第２号，2015年３月)・同「華北農村訪問調査報告⑾－2015年９月，河北省・山西省の農村」(『金沢大学経済論集』第36巻第２号，2016年３月)・同「華北農村訪問調査報告⑿－2016年９月，河北省・山西省」(『日本海域研究』第49号，2018年３月)・同「華北農村訪問調査報告⒀－2017年９月，北京市・天津市・山西省」(『日本海域研究』第50号，2019年２月刊行予定)・同「華北農村訪問調査報告⒁－2018年９月，天津市・山西省－」(『金沢大学経済論集』第39巻第２号，2019年３月刊行予定)を参照されたい。

また，華東農村調査については，拙稿「華東農村訪問調査報告⑴－2008年３月，江蘇省・上海市の農村」(『金沢大学経済論集』第29巻第１号，2008年12月)・同「華東農村訪問調査報告⑵－2008年９月，江蘇省・上海市の農村」(『金沢大学経済論集』第29巻第２号，2009年３月)・同「華東農村訪問調査報告⑶－2009年３月，江蘇省・上海市の農村」(『金沢大学経済論集』第30巻第１号，2009年12月)・同「華東農村訪問調査報告⑷－2010年２月・３月，江蘇省・上海市の農村」(『金沢大学経済論集』第31巻第１号，2010年12月)・同「華東農村訪問調査報告⑸－2010年12月，江蘇省・上海市の農村」(『金沢大学経済論集』第32巻第１号，2011年12月)・同「華東農村訪問調査報告⑹－2011年11月，江蘇省の農村」(『金沢大学経済論集』第32巻第２号，2012年３月)・同「華東農村訪問調査報告⑺－2012年３月，江蘇省の農村」(『北陸史学』第60号，2013年２月)・同「華東農村訪問調査報告⑻－2013年９月，江蘇省の農村」(『金沢大学経済論集』第34巻第２号，2014年３月)・同「華東農村訪問調査報告⑼－2014年３月，江蘇省の農村」(『金沢大学経済論集』第35巻第１号，2015年１月)・同「華東農村訪問調査報告⑽－2014年12月，江蘇省の農村」(『金沢大学経済論集』第36巻第１号，2015年12月)・同「華東農村訪問調査報告(11)－2015年５月，江蘇省の農村」(『金沢大学経済論集』第36巻第１号，2015年12月)・同「消え行く華東地域の農村－江蘇省無錫県の２ヶ村を例として」(東洋文庫近代中国研究班『近代中国研究彙報』第39号，2017年３月)・同を参照されたい。

さらに，華中農村調査については，拙稿「華中農村訪問調査報告⑴－2016年10月・2017年６月，湖北省の農村」(霞山会『中国研究論叢』第18号，2018年12月)を参照されたい。

なお，田中比呂志による中国農村調査報告として，田中比呂志「華北農村訪問調査報告⑴－2009年12月，山西省P県D村」(『東京学芸大学紀要(人文社会学系Ⅱ)』第62集，

2011年１月），河野正・田中比呂志「華北農村訪問調査報告⑵－2010年８月・12月，山西省P県D村」（『東京学芸大学紀要（人文社会学系Ⅱ）』第63集，2012年１月），田中比呂志「華北農村訪問調査報告⑶－2011年８月，山西省P県D村」（『東京学芸大学紀要（人文社会学系Ⅱ）』第64集，2013年１月），福士由紀・田中比呂志「華北農村訪問調査報告⑷－2012年８月，山西省P県D村」（『東京学芸大学紀要（人文社会学系Ⅱ）』第64集，2013年１月），田中比呂志・孫登洲・古泉達矢「華北農村訪問調査報告⑸－2013年８月，山西省P県D村」（『東京学芸大学紀要（人文社会学系Ⅱ）』第65集，2014年１月），河野正・前野清太朗・古泉達矢・内山雅生・田中比呂志「華北農村訪問調査報告⑹－2013年８月・2014年８月，山西省L県G村・D県Y村」（『東京学芸大学紀要（人文社会学系Ⅱ）』第66集，2015年１月），田中比呂志「華北農村訪問調査報告⑺－2015年９月河北省S県G鎮W村，山西省L県N鎮G村，2016年９月雲南省C自治州Z鎮D村，河北省R県W鎮W村，山西省L県J鎮Z村，L県N鎮G村－」（『東京学芸大学紀要（人文社会学系Ⅱ）』第69集，2018年１月）などを参照されたい。

３）菅野智博「近代南満州における農業外就業と農家経営－遼陽県前三塊石屯の事例を中心に－」（東洋文庫『東洋学報』第98巻第３号，2016年12月）。

補記）本稿は，科学研究費助成事業（基盤研究（B）（一般）2018年度～2022年度「社会主義経済体制下の中国農村における社会環境の特質と変容に関する再検討」（研究代表者：弁納才一，課題番号18H00876）による研究成果の一部である。